

令和3年度 東京都立東村山高等学校学校経営報告

東京都立東村山高等学校

統括校長 川 瀬 徹

1 今年度の取組みと自己評価

本校は進学応援型エンカレッジスクール12年目となった本年度、新型コロナウイルス感染症対策に十分配慮し、ガイドラインを厳守した上で「他者（ひと）のために、一歩先の自分へ」のスローガンを実現すべく、生徒・教員ともに5つの取組を軸に目指す学校像の達成を目指した。オンライン授業実施・分散登校による学年別文化祭（若鳩祭）開催・学年レクリエーションなど「生徒の笑顔」を大切にする行事の創出など新しい工夫を重ねた一年間であった。

【取組の方向1】教育課程の完全実施

達成度 A

(1) 教育課程実施に係る数値目標達成度の分析

オンライン学習を全教科で実施した。送受信環境整備はハード面の整備と共に、授業内容の一層の工夫・改善が課題である。分かりやすい授業と教育相談により中途退学者は目標上限の3分の1程度にとどめられている。進路指導部の粘り強いと取り組みと校内職員協力により進路決定率は3月には90%に達した。教職員の異動が進む中、指導内容や指導方法の継承・発展を推進することも課題である。

(2) 令和4年度教育課程届について

スクール・ミッション及びスクール・ポリシーを明示し、教育実践を的確に進める工夫をした。特に第1学年において新しい観点別評価（3観点）と一人1台端末の活用による指導の充実を図った。

【取組の方向2】特色ある教育活動等

達成度 B

(1) 年間のべ遅刻者数と中途退学防止対策の考察

遅刻者は昨年度よりは多いものの、目標の範囲内にとどめられた。学力向上研究校（校内寺子屋事業）により、学習につまずいても取り戻す機会が確保されている。

(2) 朝学習・朝読書と学校図書館の活用

朝学習・朝読書は定着してきているが、不読書率はもう一歩の数値を示した。自ら学ぶ力を高めるためにも、主体的読書活動を一層たかめることが必要である。

【取組の方向3】村高未来創生事業（「日本一の教育の場とすること」を目指す）

達成度 A

(1) グランドデザインを踏まえた新教育課程編成と高大接続改革対応

新学習指導要領に基づく教育課程を完成したが、3学年選択科目について詳細までは未確定という課題をのこした。ポートフォリオについてはClassi利用から紙もしくはTeamsへと移行することとなった。

(2) 学びの基盤プロジェクト協力校事業と教職員による主体的研修事業

読解力・自ら学ぶ力それぞれのワーキンググループによる探究にとどまらず、研究授業開催により全校で共通認識を深めることができた。本校以外の指定校のいよる実践についても指導部作成の広報を配布し、考察することができた。

(2) 通級学級プロジェクトチームの活動について

新入生受け入れに当たり、中学校と緊密な連携をとり学校生活や家庭における特別な支援や合理的配慮が必要なケースを記録し、学級担任はもちろん学校全体で情報共有・共通理解できるようにした。また通級学級について制度や課題について全校職員研修を行い、正確な共通理解の浸透を図った。

【取組の方向4】新校舎はじめ新施設の活用とグランド造成工事への対応

達成度 C

(1) 新施設活用と防災対策

1階生徒昇降口まわり・職員室と学び合いプラザの間にある「学び合い広場」・生徒会室前の掲示板等を若鳩祭（文化祭）や卒業式祝賀などで発表・広報スペースとして活用した。改築1年経過にあたり、東村山消防署及び東村山市役所による防災点検を実施し、安心・安全な学校しせつであることを確認できた。

(2) 旧校舎解体・新グラウンド造成と校外体育施設利用

令和3年度前半で旧校舎解体は完了し、新グラウンド造成は令和4年2月に工事業者決定が決定、グラウンド工事竣工は同年11月、検査完了予定同年12月となった。令和4年度3学期にはグラウンドを含む全工事が完了することとなる。したがって、サッカー、野球、陸上各部による外部体育施設利用は令和4年度第2学期終了近くまで継続する見通しである。また水泳部については学校プール施設は整備されて

いるが、温水プールではないので今後も冬季の校外施設利用を継続する。なお令和4年1学期に開催予定の体育祭は府中市市民陸上競技場を利用予定である。

【取組の方向5】 働き方改革

達成度 C

(1) 子育て・介護支援について

育児短時間・部分休・介護休暇の活用について管理職から指導を行っている。男性職員による育児休業取得についての理解も深まり、令和4年度の男性職員による育児休業取得について管理職と相談中のケースもある。子育て・介護等について理解と相互支援・思いやりのある環境を整える努力が継続されている。

(2) 月当たり時間外勤務45時間を超える教員数等の推移について

毎月3～5名程度の勤務時間外在校時間45時間超えが認められた。該当者には管理職による面接や必要に応じての産業医面接を実施した。取り組みの結果、月60時間超える者は1～2名にとどまるようになった。

【応募・入学選抜】

達成度 B

ホームページ更新や広報（学校案内パンフレットと学校広報「若鳩だより」）発行、校長による中学校・塾訪問とダイレクト電子メール発信を精力的に実施した。この結果、多くの都立高等学校が応募者獲得に苦戦する中、年度初めの目標には届かなかったものの推薦による選抜応募 倍、前期募集応募1.3倍を確保した。ただし後期募集応募は20名募集に対し1.0倍であり、エンカレッジスクールになって以来最低倍率となった。

2 令和3年度の数値目標と達成状況

達成状況 **A**=優れた成果、**B**=良好な水準に到達、**C**=ある程度目標を達成、**D**=もう一步の努力が必要

項 目	令和3年度の具体的な目標及び数値目標		達成状況
取組の方向 1 達成度 A	オンライン学習試行	5教科以上で実施またはその立案	A
	中途退学者・転学者数合計	各学年5名以内（全校合計 15名）	A
	教育相談充実	ユースソーシャルワーカーとスクールカウンセラーへの相談件数合計460件	A
	進路決定率	90%以上（就職内定率100%、進学＝センター利用1名以上 一般受験1名以上、日東駒専クラス以上4名以上）	A
	アクティブプラン to 2020 参考取組	体力テスト総合評価 A と B 合わせて 35%以上(コロナ禍で不完全実施)	—
取組の方向 2 達成度 B	年間のべ遅刻者数	3500名以内	A
	1学年 校内寺子屋出席率	90%以上	A
	2学年 不読書率	35%以下	C
	3学年 キャリア・進路学習	年間20回以上実施	A
	図書館利用活性化	全校図書貸出冊数 年間のべ3000冊以上	C
	部活動加入率	1学年100%、年度当初全学年85%以上、3学年65%以上	C
取組の方向 3 達成度 A	国際理解	グローバル化社会対応とオリンピック・パラリンピック学習 東京都英語村利用150名	A
	読み書きアセスメント、日本語検定1・2 回、リテラス	学びの基盤プロジェクト研究校事業に係る検査毎回190名以上実施	A
	漢字検定・英語検定	漢字検定3級以上と英語検定3級以上との合格者合計30名以上	A
取組の方向 4 達成度 C	学校・財務局・都立部・工事業者による 打合会議	毎月3回（年間35回）程度実施（グラウンド工事の遅れ9月以降なし）	D
	一般需用費センター執行割合	60%以上	A
取組の方向 5 達成度 C	働き方改革研修会開催	年間4回以上	B
	ライフ・ワーク・バランス	月当たり時間外勤務45時間を超える教員をゼロにする	B
		全教職員の年休5日以上取得を目指す。	C
応募・入学選抜 達成度 B	入選推薦募集倍率	4.0倍	C
	入選前期応募倍率	1.4倍（1.30倍であり、2年連続低落）	B
	ホームページ更新	年間200回以上	A
	若鳩だより	毎月外部50か所以上に配布	A